

1～4年次前期・選択

2単位・30時間

【概要・目的】

本科目は、倫理・道徳について、筋道立てて考えることの必要性を示し、そのための道具たてを紹介することを目的とします。社会生活においても、もちろん医療の現場でも、道徳つまり善悪の問題は避けて通れません。この問題をお説教や理想論ではなく現実の問題として考えてみましょう。

【到達目標】

- 1) なぜ倫理・道徳が必要なのかを自分なりに理解し述べられる。
 - 2) 倫理学のいくつかの理論を理解し、それを現実の事例に適用できる。
-

【内容・スケジュール】

1. イントロダクション
 2. 倫理と文化相対主義（善悪は文化によって異なるか）
 3. 倫理と文化相対主義（文化による葬儀の形式や生命観の相違）
 4. 倫理と文化相対主義（文化横断的な価値観の可能性）
 5. 功利主義の考え方（善とは「最大多数の最大幸福」を目指すこと）
 6. 功利主義の考え方（安楽死について）
 7. 功利主義の考え方（動物の権利について）
 8. カントの義務の倫理（善とは幸福を目指すことではなく義務を果たすこと）
 9. カントの義務の倫理（自殺はどうして道徳的に誤りか）
 10. 社会契約の理論（社会の成立は人々の契約による：古典的社会契約の理論）
 11. 社会契約の理論（ロールズの「無知のヴェール」と「正義」：現代の社会契約の理論）
 12. 徳の倫理（倫理的であるとはある種の性格（＝徳）をもっていること）
 13. ケアの倫理（善とはケアしケアされる関係にあること）
 14. 徳の倫理・ケアの倫理の特徴（行為か性格か・自律か依存か）
 15. まとめ
-

【評価】

筆記試験（90%）、出席状況および参加態度など（10%）

【教科書】

プリントを配布する。

【推薦参考図書】

ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』、古牧・次田訳、晃洋書房、2003年
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』、
鬼澤忍 訳、早川書房、2010年

【その他】 メールアドレス mappy0905@hotmail.co.jp